

クマガラ

カラスほどの大きさのクマガラは、日本最大のキツツキの仲間で、ほぼ北海道だけで見られる鳥です。針葉樹と落葉樹の混交林を好み、その大きな鳴き声や餌を探すために木をつつく大きな音ですぐに見つけることができます。オスは真っ赤なトサカ、メスは黒に赤が混ざったトサカを持っています。

オオアカゲラ

オオアカゲラは、日本で 2 番目に大きなキツツキの仲間です。羽全体に白いラインが入っており、背中の下の方が白色です。倒れた丸太や、古い木の根元付近で、枯れた木や枯れかけた木の中にある虫を探します。これはコンタクトコールと呼ばれる、仲間と連絡を取るためによく聞かれる鳴き声です。

アカゲラ

アカゲラは日本全国に生息し、北海道でもよく見られます。他のキツツキと同様にアカゲラのつがいは、頭とくちばしをハンマーとノミのように使い木の幹や太い枝に巣穴を掘ります。これはコンタクトコールと呼ばれる、仲間と連絡を取るためによく聞かれるアカゲラの鳴き声です。

ヒヨドリ

ヒヨドリは日本全国の森や公園、庭によくいる鳥です。北海道では冬より夏によく見られます。体の全体は灰色で、ほおに特徴的な栗色の斑点があります。ツグミほどの大きさで長い尾を持つヒヨドリは短距離性の渡り鳥で、森の低木や樹木の種子を散布する重要な役割を果たしています。非常によく鳴き、飛びながらギーギーとけたたましい鳴き声を上げることもよくあります。

カケス

カケスはカラス科の鳥で、森林地帯に生息しています。典型的な鳴き声は（ここで聴けます）騒がしいですが、猛禽類などほかの鳥の鳴き真似もします。北海道のカケスは魅力的なシナモン色の頭と黒目を持ち、本州のカケスとは異なります。北海道北東部から南西部まで季節移動します。

ノゴマ

ノゴマは、オスが明るい赤色の喉を持つことから英名で「ルビー・スロート」（ルビー色の喉）と呼ばれます。小さなソングバード（鳴き鳥）で、夏にだけ北海道にやって来ます。よく低木や、茂みの上に突き出た止まり木からさえずります。鳴くときは、そのルビー色の喉を膨らませ、振動させます。

キクイタダキ

キクイタダキは日本に生息する留鳥の中で最も小さく、冬の気温の低さに関わらず、北海道で一年中見られます。オスには明るい金色のトサカがあり、求愛行動のときだけ見せびらかします。針葉樹の高いところから非常に甲高い、ハイピッチの鳴き声で人間の聴覚を（そしてマイクも！）試しています。

ヤマガラ

ヤマガラは日本全国で見られますが、北海道東部にはあまりいません。春から夏は主に虫を食べますが、秋から冬は種子や木の実を好み、それらを足に挟んで木の枝に押し付け、つついて中を開けます。ヤマガラは「ピーツーツーピー」と繰り返し鳴きます。

シジュウカラ

シジュウカラは北海道を含む日本全国に分布し、庭や公園、森林地帯で見られます。他のシジュウカラ科の鳥と同じで、事前にキツツキが掘った穴の中に巣を作ります。冬に、他の種類の鳥が混合で形成する群れの中でよく見られます。シンプルに反復する鳴き声をここから聴くことができますが、この種類は他にもさまざまな鳴き声やさえずりをします。

エゾライチョウ

エゾライチョウは、スカンジナビア半島から日本まで幅広い地域に分布していますが、日本では北海道のみに限られ、針葉樹と落葉樹の混交林を好みます。たいてい地面の上で餌を探しますが、低木や樹木からベリー類の果実や芽も食べます。一般的に鳴き声はか細く、甲高い口笛のような音ですが、この録音は成鳥がおそらくひな鳥を呼んでいるときの珍しい鳴き声です。

ミソサザイ

ミソサザイは日本の留鳥の中で 2 番目に小さい鳥で、厳しい北海道の冬さえ上手に乗り越えられるようです。小川や河川の近くの雑木林、湿った森林地帯に生息し、無脊椎動物を食べます。体は小さいものの、その鳴き声は驚くほど大きく、水が勢いよく流れる音の上からでも聴こえます。

ゴジュウカラ

北海道のゴジュウカラは淡く青みがかった灰色で、腹部は白く、顔の側面には太く黒い縞模様があり、尾の下部には栗色の小さなまだら模様があります。常緑樹と落葉樹の混交林や公園、庭で木の幹に何度も上り

下りしたり、逆さまになって枝の下にぶら下がったりして種子や木の実、虫を探します。大きな声で反復しながら鳴き、頻繁にコンタクトコールをします。

コゲラ

コゲラは日本最小のキツツキで、北海道全域を含む日本のほとんどの地域に生息しています。多くのキツツキとは違い、オスとメスは見た目の区別が付きません。オスは頭の側面に赤い斑点がありますが、普段は隠れていて見えません。この一般的な種類の鳥は冬に他の種類の鳥と混合の群れを作り、特徴的な「ジー」という鳴き声で自分の存在を知らせます。この録音ではウグイスのさえずりも聴こえます。

アオジ

アオジは、北海道の森林で非常によく見られる夏の鳴き鳥です。一年のほとんどの期間は種子を食べますが、繁殖期の間はひな鳥にタンパク質を与えるために虫中心の食生活になります。秋には、北海道全域にあるほとんどの森林地や植生地で見られます。

キビタキ

キビタキは黒、白、黄色、オレンジの美しい羽を持ちます。夏に北海道の開けた森林地帯にやって来るかなり一般的な鳥です。才能ある歌手でボキャブラリーが非常に豊かなキビタキは、フレーズを繰り返したり、他の鳥を真似たりして、さまざまな歌を歌います。

カッコウ

カッコウは夏に北海道にやって来て低地草原、海岸沿いの牧草地、高地の草原に現れます。カッコウという名前は、英語でも日本語でもオスの特徴的な鳴き声を真似て付けられたものです。オスは基本的に非常に目立つ木の上から鳴きます。メスは特に飛行中に独特の連続音を発することがよくあります（この録音の最後に聴けます）。カッコウは托卵する鳥で、メスは他の鳥の巣に卵を産みます。

ウソ

北海道に生息するウソは「灰色のお腹のウソ」と呼ばれることもあり、日本の他の場所で見られるウソとは配色が異なります。他の地域ではお腹全体がピンクですが、北海道のオスはほおが明るいピンクでお腹が灰色です。また、メスとひなはほおが茶色く、お腹も茶色です。葉や花のつぼみを静かに食べますが、ときどき密集した葉の陰に隠れて、シンプルで哀愁のある口笛のような鳴き声を出すことがあります。

イカル

イカルは日本に生息するアトリ科の中で最大の鳥で、夏に北海道にやって来ます。秘密主義で、基本的に密集した葉の間に静かに餌を探し、虫や種子を食べます。しかし、鳴くときは木の梢の高いところに座って鳴きます。

ホシガラス

ホシガラスはカラス科の鳥で、北海道の山間地域で良く見られ、針葉樹を好みます。たいてい木の実や種子を食べますが、秋には後で食べるための食糧を大量に埋めて保管します。驚くことに、木の実を埋めた場所を覚えているのです。ホシガラスの鳴き声は大きく、騒がしい声です。

ハクセキレイ

ハクセキレイは海岸沿いや水路沿い、湖付近、開けた土地で見られます。もっぱら地上で餌を探し、無脊椎動物を捕まえます。北海道のより寒い地域では、たいてい夏に見られます。歩くときは尾が絶えず動くので、英名に「Wagtail」（揺れる尾）という単語が入っています。